

(財)八尾市文化財調査研究会報告14

昭和61年度事業概要報告

1987年12月

(財)八尾市文化財調査研究会



昭和61年度事業概要報告



1987年12月

(財)八尾市文化財調査研究会

序 文

河内平野の歴史はその成立からも「水との戦い」ともいわれており、発掘調査から検出された遺構からも当時の河川の氾濫のすさまじい様子がうかがわれ、当時の人達が積極的に水に立向い、今日見られるような肥沃な土壌が作りだされ、河内が「大阪のメソポタミヤ」と言われるところでもあります。

この河内平野の南東部に位置する八尾市は、その市域内に貴重な遺跡が多く存在し、これらの文化財を、開発からの破壊から保護し長く後世に伝承することが、現代に生きる我々の責務だと認識し、行政と一体となり保護と開発の調和を図り、発掘調査を進めておるところであります。

(財)八尾市文化財調査研究会が、教育委員会の指示に基づいて実施いたしました発掘調査は、13件10902平方米となりこれらの調査の結果、数多くの遺物遺構が検出され、その成果は八尾市の歴史を考える上で、非常に重要な要素をもつものだと思っております。

また、当財団設立の大きな目的の一つである市民文化の啓発事業につきましても「発掘調査よもやま話」をテーマにした文化財講座の開催、小学生高学年を対象にしたチビッコ文化財夏期学級の開設、遺跡から出土した遺物の展示等を例年どおり実施し、これらの催しを通じて文化財の保護思想の普及活動に努めておるところであります。

本書は、昭和61年度の事業の概要を収録いたしましたものであります。なお、近い時期に報告書の刊行を予定いたしております。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご指導、ご協力をいただいた関係機関皆様に対し、心から厚くお礼申し上げます。

昭和62年4月

財団法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 山 脇 悦 司

例 言

1. 本書は、財団法人八尾市文化財調査研究会が、昭和61年度に行ったすべての事業をまとめたものである。
1. 埋蔵文化財の発掘調査の項は、調査担当者（高萩千秋・原田昌則・成海佳子・西村公助・駒澤敦）の報告をもとに、成海が検討を加えてまとめた。
1. 本書に掲載した地図は、八尾市発行の2500分の1を使用した。埋蔵文化財分布図は、八尾市教育委員会発行（昭和61年4月1日）のものをもとに作成した。
1. 本書と埋蔵文化財発掘調査報告書の内容が異なる場合は、報告書の内容を正しいものとする。

本文目次

埋蔵文化財分布図

序文

例言

I	八尾市文化財調査研究会の概要	1
II	埋蔵文化財の発掘調査	4
	1 査振B遺跡（第3次調査：緑ヶ丘1丁目117-8）	6
	2 小阪合遺跡（第7次調査：小阪合町1丁目・2丁目地内）	14
	3 小阪合遺跡（第8次調査：青山町1丁目・2丁目地内）	19
	4 八尾南遺跡（第6次調査：西木の本3丁目・4丁目地内）	25
	5 東弓削遺跡（第2次調査：東弓削102-1他）	31
	6 田井中遺跡（第4次調査：志紀町西3丁目地内）	36
	7 矢作遺跡（第1次調査：高美町3丁目46-1）	42
	8 花岡山遺跡（第1次調査：楽音寺824他）	48
	9 東郷遺跡（第23次調査：荘内町1丁目地内）	52
III	その他の事業	56
IV	受贈図書一覧	58

挿 図 目 次

1 壹振B遺跡(第3次調査)	
第1図 調査地周辺図	6
第2図 検出遺構平面図(第1調査面)	9
第3図 検出遺構平面図(第2調査面)	10
2 小阪合遺跡(第7次調査)	
第4図 調査地周辺図	15
第5図 出土遺物実測図	17
4 八尾南遺跡(第6次調査)	
第6図 調査地周辺図	26
第7図 調査区設定図	27
第8図 層序模式図	28
5 東弓削遺跡(第2次調査)	
第9図 調査地周辺図	31
第10図 層序模式図	32
第11図 検出遺構平面図(第1調査面)	33
6 田井中遺跡(第4次調査)	
第12図 調査地周辺図	37
7 矢作遺跡(第1次調査)	
第13図 調査地周辺図	42
第14図 検出遺構平面図	45
8 花岡山遺跡(第1次調査)	
第15図 調査地周辺図	48
9 東郷遺跡(第23次調査)	
第16図 調査地周辺図	52
第17図 検出遺構平面図	54

図版目次

1 菅振B遺跡(第3次調査)

図版 一 第1調査区 第1調査面全景(東から)	同 第2調査面全景(東から) ……11
図版 二 第2調査区 第1調査面全景(西から)	同 第2調査面全景(西から) ……12
図版 三 第3調査区 第1調査面全景(東から)	同 第2調査面全景(東から) ……13

2 小坂合遺跡(第7次調査)

図版 四 K-I A地区全景(南から)	K-II A地区全景(南から) ……18
---------------------	----------------------

3 小坂合遺跡(第8次調査)

図版 五 第1調査区 第2調査面南部(北から)	同 第2調査面北部(南から) ……21
図版 六 第2調査区 第2調査面南部(南から)	同 第2調査面北部(北から) ……22
図版 七 第4調査区 第1調査面全景(東から)	同 第2調査面全景(東から) ……23
図版 八 第3調査区 第1調査面全景(南から)	第5調査区 第1調査面全景(西から) 24

4 八尾南遺跡(第6次調査)

図版 九 第1調査区 第1調査面全景(西から)	同 第2調査面(西から) ……29
図版一〇 第2調査区 第1調査面全景(南から)	第3調査区 第2調査面(南から) ……30

5 東弓削遺跡(第2次調査)

図版一一 第1調査面全景(北東から)	第2調査面全景(北東から) ……35
--------------------	--------------------

6 田井中遺跡(第4次調査)

図版一二 第4調査区 第1調査面全景(東から)	同 第2調査面全景(東から) ……40
図版一三 第5調査区 第1調査面全景(東から)	同 第2調査面全景(東から) ……41

7 欠作遺跡(第1次調査)

図版一四 調査区全景(東から)	SB-2(北から) ……46
図版一五 SE-8(北から)	SD-14遺物出土状況 ……47

8 花岡山遺跡(第1次調査)

図版一六 第1調査区 第1調査面全景(南から)	同 第2調査面全景(南から) ……50
-------------------------	---------------------

9 束郷遺跡(第23次調査)

図版一七 調査区全景(東から)	調査区北西部(北東から) ……55
-----------------	-------------------

I 八尾市文化財調査研究会の概要

1 目的

八尾市域の文化財の調査・保存・研究を通じて文化財の保護を図るとともに、文化財の普及啓発を推進し、地域文化の発展に寄与し、永く後世に文化遺産を継承することを目的とする。

2 事業内容

- ・埋蔵文化財の発掘調査および内業整理業務の受託
- ・埋蔵文化財以外の文化財の調査研究
- ・埋蔵文化財の調査報告書および文化財に関連する図書の刊行
- ・文化財保護の普及啓発
- ・八尾市教育委員会からの受託業務
- ・その他目的を達成するために必要な業務

3 設立年月日

昭和57年7月1日

4 事務局所在地

大阪府八尾市清水町1丁目2番1号

5 役員および組織

理事 14名（理事12名・監事2名）

評議員 14名

理事長—事務局長—
—事務職員 2名（うち嘱託1名）
—技術職員 5名（うち嘱託3名）

6 役員・職員の名簿（昭和62年3月31日現在）

理事長	山脇 悦司	八尾市長
理事	伊藤 浩次	やお文化協会専務理事（昭和62年3月7日死去）
”	今川 金治	八尾商工会議所会頭
”	貴島 正男	八尾市郷土文化推進協議会会長

理 事	田代 克己	帝塚山短期大学教授
"	辻合喜代太郎	帝国女子大学名誉教授
"	西崎 宏	八尾市教育長
"	野澤 倫昭	八尾市議會議員
"	古橋 了	星電器製造株式会社取締役社長
"	松浦 慶太	八光信用金庫理事長
"	森岡 安治郎	八尾市農業協同組合組合長
"	吉房 康幸	大阪府教育委員会文化財保護課長
監 事	谷村 安脩	八尾市民憲章推進協議会会長
"	福島 孝	八尾市収入役
評 議 員	浅井 允晶	堺女子短期大学教授
"	安積 由高	やお文化協会常任理事
"	阿部 孝	やお文化協会事務局長
"	上井 久義	関西大学教授
"	奥野 俊雄	やお文化協会常任理事
"	櫻井 敏雄	近畿大学助教授
"	田中 誠太	八尾市議會議員
"	棚橋 利光	大阪府立八尾高等学校教諭
"	塚口 義信	堺女子短期大学教授
"	細見 二郎	八尾商工会議所副会頭
"	松井 一雄	八尾市理事
"	三上 幸寿	八尾市史編纂委員
"	村川 行弘	大阪経済法科大学教授
"	山中 孝一	八尾市教育委員会社会教育部長（以上五十音字順）
事務局長	市森 智宣	
事務職員	森本 よしの	
"	中谷 晚子	（嘱託）
技術職員	高萩 千秋	
"	原田 昌則	
"	成海 佳子	（嘱託）
"	西村 公助	（ " ）
"	駒澤 教	（ " ）

7 理事会・評議員会の開催

・理事会

第1回 昭和61年6月11日

- ① 評議員の選出について
- ② 昭和60年度の事業報告承認について
- ③ 昭和60年度の収支決算承認について
- ④ 昭和60年度の会計監査について

第2回 昭和62年3月19日

- ① 昭和62年度の事業計画承認について
- ② 昭和62年度の収支予算承認について
- ③ 八尾市立歴史民俗資料館管理受託承認について

・評議員会

第1回 昭和61年6月11日

- ① 理事・監事の選任について
- ② 昭和60年度の事業報告承認について
- ③ 昭和60年度の収支決算承認について
- ④ 昭和60年度の会計監査について

第2回 昭和62年3月19日

- ① 昭和62年度の事業計画承認について
- ② 昭和62年度の収支予算承認について
- ③ 八尾市立歴史民俗資料館管理受託承認について

II 埋蔵文化財の発掘調査

当調査研究会が、昭和61年度に行った埋蔵文化財の発掘調査件数は13件を数え、総調査面積は10902㎡である。これらの調査は、すべて開発に伴う緊急発掘調査で、八尾市教育委員会から指示を受けて行ったものである。このうち、壹振B遺跡（第2次調査）は『昭和60年度事業概要報告』に収録したため、ここではふれない。また、小阪合遺跡（第9次調査）・八尾南遺跡（第5次調査・第7次調査）の3件については、昭和62年度に継続する事業のため、来年度の報告に委ねる（一覧表参照）。

昭和61年度の調査では、縄文時代から室町時代までの遺構・遺物を検出しており、多様な成果を得た。以下、おもな検出遺構・出土遺物を時代順に列挙する。

縄文時代 遺構は検出されていないが、8花岡山遺跡で、この時期に比定される石匙・剥片（サヌカイト）等が出土している。

弥生時代後期 この時期の遺構には、7矢作遺跡の溝（1条）がある。ここでは溝からの出土遺物のほか、遺構に伴わないものの、遺存状態の良い土器が数多く出土していることから、近隣に集落のある可能性が考えられる。

古墳時代前期 1壹振B遺跡・3小阪合遺跡・9東郷遺跡で、これまでの調査結果と同じく、集落が検出されている。1壹振B遺跡では、おもに掘立柱建物で構成する柱穴群が数多く検出されている。3小阪合遺跡の調査地は遺跡の北西辺に位置しており、この時期の集落が広範囲なものであることが明らかになった。また、9東郷遺跡でも、この時期の集落が南東へ広がることが明らかになった。

古墳時代中期 3小阪合遺跡でこの時期に埋まった河川（楠根川）が検出されているが、幅・深さ・方向などは不明である。

古墳時代後期 1壹振B遺跡で埋葬に関係する土坑（1基）ほか、7矢作遺跡で溝（1条）が検出されている。壹振B遺跡では、第2次調査（昭和60年度）で同時期の古墳（1基）が検出されていることから、この付近一帯にこの時期の墓域があったと考えられる。矢作遺跡では、市教委の調査（昭和60年度）で溝（3条）に囲まれた掘立柱建物（3棟以上）が検出されており、今回の調査地との関係が考えられる。

古墳時代後期～奈良時代 3小阪合遺跡で、古墳時代後期から奈良時代にかけての土坑・溝などが検出されている。一方、8田井中遺跡では、奈良時代の水田が検出されている。この水田は第3次調査（昭和60年度）で部分的に確認されたもので、今回の調査によって広範囲に構築されていることが明らかになった。

平安時代後期～鎌倉時代後期 7矢作遺跡で、掘立柱建物(2棟)・井戸(13基)などからなる集落が検出されている。この集落は、約200年間にわたって存続していたものである。

平安時代末期～鎌倉時代初頭 3小阪合遺跡で集落、6田井中遺跡で水田が検出されている。小阪合遺跡の集落には、初の検出例である掘立柱建物が含まれていることから、調査地付近(遺跡の北西部)がこの時期の集落の中心部であったと考えられる。田井中遺跡では水田が検出され、第3次調査(昭和60年度)と同様の結果が得られている。

鎌倉時代末期～室町時代 5東弓削遺跡で、鎌倉時代以降の整地層とその上層で水田の耕作土が検出されている。3小阪合遺跡でも、この時期の整地層が検出されており、その上面には建物・井戸などが構築されている。また、整地層が認められない地区には水田が構築されており、計画的な土地利用の一端が窺える。

室町時代 2小阪合遺跡では、この時期に埋まった河川(楠根川)が検出されている。ここでも幅・深さ・方向などは明確にできていないが、現在の楠根川にほぼ重複している。そのほか、7矢作遺跡で耕作痕、8花岡山遺跡で土坑(1基)が検出されている。

昭和61年度発掘調査一覧表

番号	遺跡名	調査地	原因者	原因	調査期間	面積 ^(㎡)	担当
*	豊振B(第2次)	緑ヶ丘2丁目1-14	大阪府	府営住宅	昭和60年 10月15日～昭和61年 4月30日	2,366	西村
1	豊振B(第3次)	緑ヶ丘1丁目117-8	八尾市	市営住宅	7月25日～10月31日	722	西村
2	小阪合(第7次)	小阪合町1丁目・2丁目地内	八尾市	ポンプ場放流渠	4月5日～8月8日	732	高萩
3	小阪合(第8次)	青山町1丁目・2丁目地内	八尾市	区画整理	8月25日～12月10日	998	高萩
*※	小阪合(第9次)	小阪合町1丁目地内	八尾市	ポンプ場放流渠	昭和62年 2月25日～7月28日	480	高萩
*※	八尾南(第5次)	若林町1丁目76	三起商行(株)	社屋	昭和62年 9月1日～7月4日	4,500	原田
4	八尾南(第6次)	西木の木3丁目・4丁目地内	八尾市	公共下水道	昭和62年 1月7日～1月31日	120	西村
*※	八尾南(第7次)	木の木110	八尾市	仮称第2大正小	昭和62年 2月10日～7月8日	3,044	西村
5	東弓削(第2次)	東弓削102-1他	関西電力㈱	送電鉄塔	12月5日～12月13日	50	西村
6	田井中(第4次)	志紀町西3丁目地内	近畿財務局	国家公務員宿舎	昭和62年 12月10日～3月25日	1,283	成海
7	矢作(第1次)	高美町3丁目46-1	近畿地方建設局	八尾税務署	昭和62年 12月20日～3月20日	1,000	塚田
8	花岡山(第1次)	薬師寺824他	大阪経済法律学園	運動施設	昭和62年 1月12日～3月28日	695	原田
9	東郷(第23次)	荘内町1丁目地内	藤井政次郎	マンション	昭和62年 2月16日～3月18日	598	高萩

*は前年度報告済(報告9) ※は来年度報告予定

1 ^{かやふり}萱振B遺跡（第3次調査）

調査地 八尾市緑ヶ丘1丁目117-8

調査期間 昭和61年7月25日～10月31日

調査面積 722㎡

はじめに

今回の発掘調査は市営住宅建て替えに伴うもので、当調査研究会が萱振B遺跡内で実施した発掘調査の第3次調査にあたる。

当遺跡は旧大和川の主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置しており、現在の行政区画では緑ヶ丘1～4丁目にあたる。当遺跡の所在する沖積地は八尾市域の中央部を南東から北西へ伸びるもので、多くの遺跡が位置している。当遺跡の南には小阪合遺跡・成法寺遺跡・東郷遺跡、西には宮町遺跡・佐堂遺跡、北には萱振A遺跡・山賀遺跡等が存在している。



第1図 調査地周辺図

当遺跡発見の契機は、昭和18年に八尾競馬場跡で防空壕構築の際、古墳時代中期に比定される子持勾玉と若干の土器が出土したことによるが、出土地点や出土土層等の詳細は不明なままであった。ところが、昭和57年度に大阪府教育委員会が発掘調査を実施したところ、古墳時代前期（布留式期）の土器棺墓群を主とした遺構・遺物が検出され、当遺跡にこの時期の墓域の存在したことが明らかになった。次いで昭和58年度にも府教委による発掘調査が前年度調査地の南隣りで実施され、弥生時代中期の方形周溝墓状遺構が検出された。さらに、昭和60年度には、当調査研究会が2件の発掘調査（第1次調査・第2次調査）を実施している。その結果、第1次調査では古墳時代前期の建物を構成する柱穴群、第2次調査では古墳時代後期の古墳（1基）ほかを検出した。第1次調査地の柱穴群は、府教委昭和57年度調査地の古墳時代前期の墓域に対応する居住域のものと考えられる。また、第2次調査地の古墳は、現時点では、河内平野で最も新しい時期に比定できるものとして注目できる。

調査概要

住宅・受水槽の構築予定地にあわせて調査区（3箇所）を設定した。南側の住宅建設予定地を第1調査区、中央の受水槽構築予定地を第2調査区、北側の住宅建設予定地を第3調査区と付称した。掘削に際しては、八尾市教育委員会の指示書に基づいて、現地表下0.3～0.5mまでの表土・旧耕上等を機械掘削で排除し、以下約1mまでに堆積する土層については人力掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果、古墳時代前期・古墳時代後期・奈良時代・鎌倉時代の4時期の遺構・遺物を検出した。

・第1調査区

現地表下約0.7m（標高6.4m）の茶褐色粘質土上面で古墳時代後期と鎌倉時代の遺構を検出し、そこから0.3m下層の灰色シルト混細砂上面で古墳時代前期の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は、土坑1基（SK-1）・小穴5個（SP-1～SP-5）・溝1条（SD-1）で、SD-1から布留式甕の破片がわずかに出土している。古墳時代後期の遺構は、土坑1基（SK-11）・小穴1個（SP-11）・溝2条（SD-11・SD-12）で、SK-11からは須恵器高杯・壺等が出土している。鎌倉時代の遺構は、溝1条（SD-1001）・小穴1個（SP-1001）である。

・第2調査区

現地表下約0.7m（標高6.4m）の茶褐色粘質土上面で鎌倉時代の遺構を検出し、そこから0.3m下層の灰茶色シルト上層で古墳時代前期の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は溝1条（SD-1）で、第1調査区のSD-1に続くものである。鎌倉時代の遺構は溝1条（SD-1002）である。

・第3調査区

現地地表下約0.6m(標高6.5m)の茶褐色シルト混粘土上面で鎌倉時代の遺構を検出し、そこから0.5m下層の灰青色シルト上面で古墳時代前期と奈良時代の遺構を検出した。

古墳時代前期の遺構は溝7条(SD-1～SD-7)・小穴34個(SP-6～SP-39)で、SD-1は第1調査区・第2調査区のSD-1と同一のものである。奈良時代の遺構は土器溜1箇所(SW-101)で、ここから土師器甕・釜等が出土している。鎌倉時代の遺構は溝2条(SD-1002・SD-1003)・小穴3個(SP-1002～SP-1004)で、SD-1002は第2調査区のSD-1002の北の延長である。

まとめ

今回の調査では、4時期の遺構・遺物を検出した。なかでも、第3調査区で検出した古墳時代前期の小穴群は、第1次調査地の柱穴群とともに、府教委昭和157年度調査地の墓域に対応する居住地と考えられる。また、第1調査区の古墳時代後期の土坑SK-11は、その形状・規模・出土遺物などから埋葬に関する遺構(墓坑?)の可能性が高い。なお、第2次調査地の古墳とSK-11の構築時期はほぼ同時期に比定することができる。このことから、SK-11が土壌墓・古墳の主体部であるならば、この時期の墓域が遺跡の北東部と南西部の2箇所に存在していたことが考えられる。

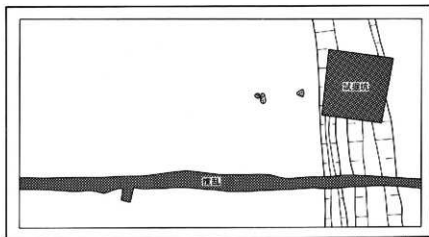
註1 金谷克己「河内八尾発見の了持勾玉」『若木考古』第6巻 1962

註2 大阪府教育委員会『豊原遺跡発掘調査概要・1-八尾市緑ヶ丘2丁目所在-』1983. 3

註3 大阪府教育委員会『豊原遺跡現地説明会資料』1983

註4 (財)八尾市文化財調査研究会『豊原B遺跡(第1次調査 緑ヶ丘2丁目1)』『昭和60年度事業概要報告』:
(財)八尾市文化財調査研究会報告9 1986. 4

註5 (財)八尾市文化財調査研究会『豊原B遺跡(第2次調査 緑ヶ丘1丁目17)』『昭和60年度事業概要報告』:
(財)八尾市文化財調査研究会報告9 1986. 4



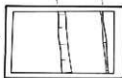
第3調査区

SD-1003

SD-1002



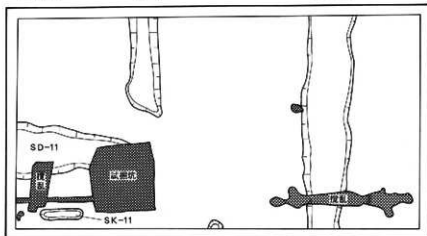
第2調査区



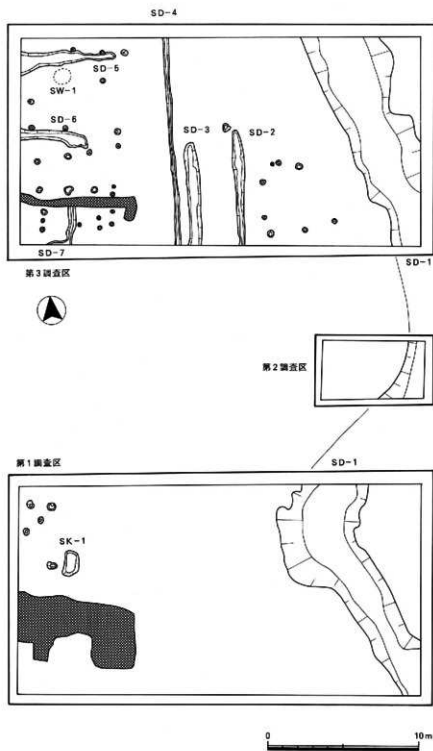
第1調査区

SD-12

SD-1001



第2圖 検出遺構平面図(第1調査区)



第3図 検出遺構平面図(第2調査区)



第1調査区 第1調査面全景（東から）



同 第2調査面全景（東から）



第2調査区 第1調査面全景 (西から)



同 第2調査面全景 (西から)



第3調査区 第1調査面全景（東から）



同 第2調査区全景（東から）

2 小阪合遺跡（第7次調査）

調査地 八尾市小阪合町1丁目・2丁目地内

調査期間 昭和61年4月5日～8月8日

調査面積 732㎡

はじめに

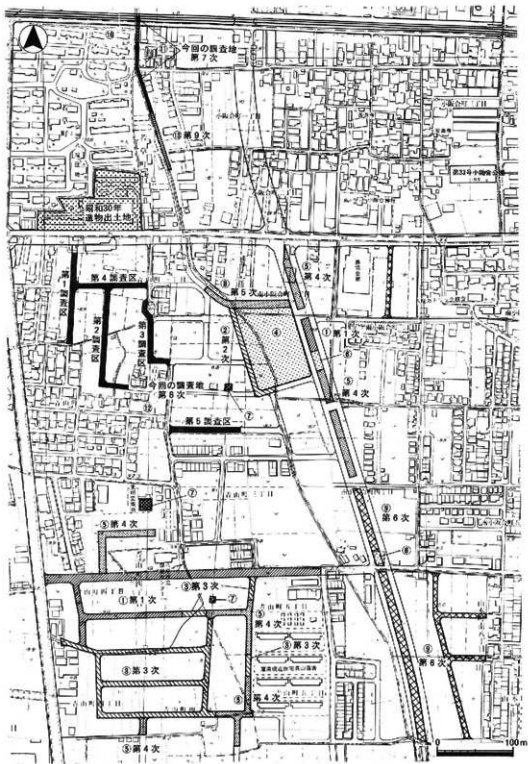
今回の発掘調査は小阪合ポンプ場放流渠築造工事に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した発掘調査の第7次調査にあたる。

当遺跡は旧大和川的主流である長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置しており、現在の行政区画では青山町・南小阪合町・小阪合町一帯にあたる。当遺跡の所在する沖積地は八尾市域の中央部を南東から北西へ伸びるもので、多くの遺跡が位置している。当遺跡の周辺に限っても、南部は中田遺跡・南西部は欠作遺跡と接し、西には成法寺遺跡、北西には東郷遺跡、北には豊振B遺跡等が近接して存在している。

当遺跡発見の契機は、昭和30年に若草町で実施された大阪府住宅供給公社山本団地建設工事の際土器が出土したことによるが、正式な発掘調査の結果ではなく、詳細は不明なままであった。その後目立った開発もなかったが、昭和57年度から南小阪合町・青山町一帯で八尾市による区画整理事業（八尾都市計画事業南小阪合上地区区画整理事業）が計画され、当調査研究会がそれに先立つ発掘調査（第1次調査）を実施した。それ以後、当遺跡内では、区画整理事業お

周辺の発掘調査一覧表

番号	調査主体	調査期間	文	発行
①	当調査研究会(第1次)	57年11月～58年3月	小阪合遺跡：(財)八尾市文化財調査研究会報告10	1987.3
②	同上(第2次)	58年6月～58年7月	小阪合遺跡：(財)八尾市文化財調査研究会報告11	1987.3
③	同上(第3次)	58年10月～59年3月	同上	同上
④	大阪府教育委員会	58年10月～59年3月	(小阪ポンプ場建設に伴う発掘調査)	
⑤	当調査研究会(第4次)	59年6月～59年11月	昭和59年度事業概要報告： 財)八尾市文化財調査研究会報告7	1985.4
⑥	大阪府教育委員会	59年9月～59年11月	(都市計画事業復原川南部流域下水道事業に伴う発掘調査)	
⑦	八尾市教育委員会	59年11月	八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書： 八尾市文化財調査報告11	1985.3
⑧	当調査研究会(第5次)	60年1月～60年3月	小阪合遺跡発掘調査概要： 財)八尾市文化財調査研究会報告8	1986.3
⑨	同上(第6次)	60年7月～60年12月	昭和60年度事業概要報告： 財)八尾市文化財調査研究会報告9	1986.4
⑩	八尾市教育委員会	61年2月	八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書： 八尾市文化財調査報告12	1986.3
⑪	当調査研究会(第7次)	61年4月～61年8月	今回報告	—
⑫	同上(第8次)	61年8月～61年12月	同上	—
⑬	同上(第9次)	62年2月～62年7月	来年度報告	—



第4図 調査地周辺図

よびそれに関連する開発が増し、昭和60年度までに大阪府教育委員会・八尾市教育委員会・当調査研究会が計10回の発掘調査を実施している(一覽表・第4図参照)。これらの調査結果から、当遺跡が弥生時代後期から近世に至るまで連続と営まれた遺跡であることが確認されている。

今回の調査地は楠根川の現流路部分にあたり、市教委調査地(⑩地点)を挟んで北約10m、南約110mの部分である。さらに、当調査区の南に隣接した80m分は、当調査研究会が昭和62年2月25日から発掘調査(第9次調査)を実施している。

調査概要

調査地は前述のように現流路下であるため、流路を鋼欠板で東西に二分して調査を実施することとなった。掘削に際しては八尾市教育委員会の昭和60年度調査結果を参考に、現地地表下1.8~2.3m前後までを機械掘削で排除し、以下を人力掘削とした。最終掘削深度は東側調査区で現地地表下2.5m、西側調査区では現地地表下6mに達する。

調査の結果、調査区全域の現地地表下1.8m(標高6.8m)前後以下で埋没した河川跡を確認した。限定された調査区内での調査のため、埋没河川の規模・深度等は不明であるが、西側調査区では深さ4m以上もの砂の堆積が確認されたことから、大規模な河川であったことが窺える。

内部には弥生時代から室町時代に至る雑多な遺物が含まれているが、ほとんどが磨耗を受けた小破片である。特筆すべきものとしては、奈良時代の軒平瓦(12)がある。この瓦は内区に唐草文と外区に鋸齒文を配するもので、当調査地から約2.5km東方に所在する高麗寺跡から出土した瓦に類似する瓦当文様を有している。

まとめ

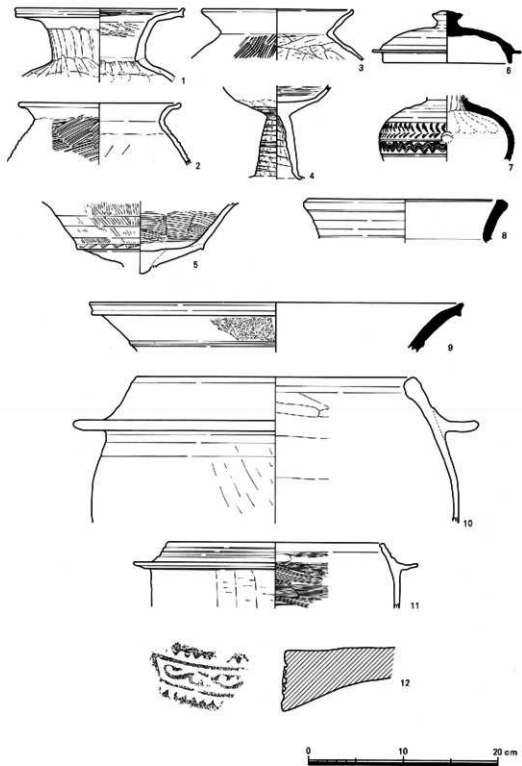
今回の調査で検出した河川跡は楠根川の旧流路である。現在の楠根川は幅10mに満たない小河川であるが、出土遺物からみれば室町時代に埋没するまでは大規模な河川であったことが考えられる。また、南方約700mに位置する第6次調査地C-VI地区(西側調査区)でも同様の大規模な河川跡を検出していることから、楠根川の旧流路は、現流路と多少のズレを有しながらも同方向の北北西へ流下していたことが窺える。

なお、軒平瓦(12)は、その出土状況からみれば、上流である南方からの流れ込みと考えられる。このことから、河川上流に奈良時代の寺院の存在が想定できよう。

註1 八尾市役所市史編纂室『八尾市史』1958、11

註2 (財)八尾市文化財調査研究会『小阪合遺跡—八尾都市計画事業市小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—<昭和57年度 第1次調査報告書>』(財)八尾市文化財調査研究会報告10 1987、3

註3 朝日書社1



第5圖 出土遺物実測図



K-1A地区全景 (南から)



K-11A地区全景 (南から)

3 小阪合遺跡（第8次調査）

調査地 八尾市青山町1丁目・2丁目地内

調査期間 昭和61年8月25日～12月10日

調査面積 998㎡

はじめに

今回の発掘調査は八尾都市計画事業南小阪合1地区西整理事業に伴うもので、当調査研究会が小阪合遺跡内で実施した発掘調査の第8次調査にあたる。調査地は第7次調査地から約300～400m南方に位置する。

調査概要

調査地は道路部分にあたるため、5箇所の道路予定地中央部に幅2mのトレンチを設定して調査を実施した。掘削に際しては既往調査の結果を参考にし、現地表下0.2～0.5mまでを機械掘削で排除し、以下の各層を人力掘削として遺構・遺物の検出に努めた。

調査の結果、古墳時代前期(庄内式期～布留式期)・古墳時代中期・古墳時代後期・奈良時代・平安時代末期～鎌倉時代初頭・鎌倉時代～室町時代・江戸時代以降の遺構・遺物を検出した。

・第1調査区

5箇所に設定した調査区のうち、もっとも北西部に位置する調査区で、南北120mの規模を有する。ここでは、現地表下0.2m(標高8.2m)前後の耕土直下で、古墳時代～鎌倉時代の遺物を包含する鎌倉時代以降の整地層を検出した。この層上面が同時代の遺構面で、井戸・溝・小穴群が検出されたが、一部は江戸時代以降の井戸・溝によって削平されている。整地層直下の灰黄色シルト上面では、平安時代末期～鎌倉時代初頭と古墳時代後期～奈良時代の二時期の遺構が検出された。前者には井戸・溝・小穴があり、後者には土坑・溝がある。

・第2調査区

第1調査区から東50mに位置する調査区で、調査区北端から南へ120m伸びた後東へ屈曲して40m伸びる。調査区北半・屈曲部以東では、第1調査区と同様の土層堆積が認められた。調査区北半では、整地層は江戸時代以降の溝によってそのほとんどが削平をうけていた。整地層下では、平安時代末期～鎌倉時代の井戸・土坑・小穴群と、古墳時代前期(布留式古相)の溝1条が検出された。屈曲部以東の整地層上面では、鎌倉時代～室町時代の井戸・溝・池状遺構・小穴群が検出された。調査区南半では、耕土直下に近世以降の堆積土層が存在し、その直下灰褐色粘土上面で、鎌倉時代～室町時代の耕作痕が認められた。

・第3調査区

第2調査区から50～60m東に位置する南北に長い調査区である。南端から北へ40m付近で西へわずかに屈曲した後再び北へ伸び、総延長は65mを測る。ここでは、第2調査区南半と同様耕土直下に近世以降の堆積土層が存在し、その直下では砂と粘土の互層からなる埋没河川の堆積が認められた。この河川は、出土遺物から古墳時代中期に埋没したものと考えられるが、限定された調査のため、方向・幅・深さ等の詳細は明確にできなかった。

・第4調査区

第1調査区中央付近と第2調査区北端を結んで東へ伸びる調査区で、長さ94mの規模を測る。ここでも第1調査区同様整地層が検出され、その上面で鎌倉時代～室町時代の井戸・溝・小穴群が検出された。整地層直下でも、第1調査区同様平安時代末期～鎌倉時代初頭と古墳時代後期～奈良時代の遺構を検出した。前者には井戸・溝・小穴群があり、後者には土坑・溝がある。

・第5調査区

第1調査区～第4調査区から南東約100～120m離れた位置に設定した調査区である。東西に長い調査区で、長さ94mを測る。ここでは、第2調査区南半・第3調査区同様耕土直下には近世以降の堆積土層があり、この直下で鎌倉時代～室町時代の水田遺構が検出された。上面には耕作痕や足跡状遺構の窪みが遺存し、部分的に砂の堆積が認められた。水田耕土直下の黄灰色粘土上面（標高7.2m）では、古墳時代前期の土坑・石集積・溝が検出された。

まとめ

今回の調査では、主に平安時代末期から室町時代の遺構が検出された。今回の調査区のうち北東部にあたる第1調査区・第2調査区北半・第2調査区屈曲部以東・第4調査区では鎌倉時代以降の整地層が検出され、この層上面で鎌倉時代～室町時代の建物を含む集落が検出された。第1調査区・第2調査区北半・第4調査区では、整地層直下の灰黄色シルト上面でも平安時代末期～鎌倉時代初頭の建物を含む集落が重複して検出されている。また、第2調査区南部付近には、「ヤシキ」の小子名があり、400～500年前までこの付近に建物があったと言い伝えられていることも、今回の調査結果に符合している。一方、第2調査区南半・第5調査区に整地層はなく、層位的に相当する上層上面で水田遺構が検出されていることから、この付近が整地層上面に営まれた居住域に対応する生産域であると考えられる。したがって、この時期には計画的な土地利用が実施されていたことが窺える。

これまでの調査地では、平安時代末期から室町時代にかけての建物は検出されていないことから、当該跡のこの時期の集落の中心は今回の調査地付近（とくに北西部）にあったと考えられる。



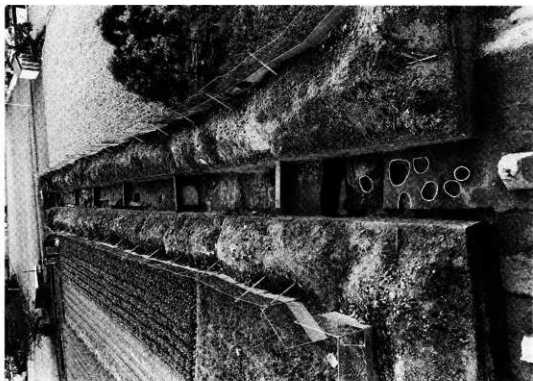
第1調査区 第2調査面南部（北から）



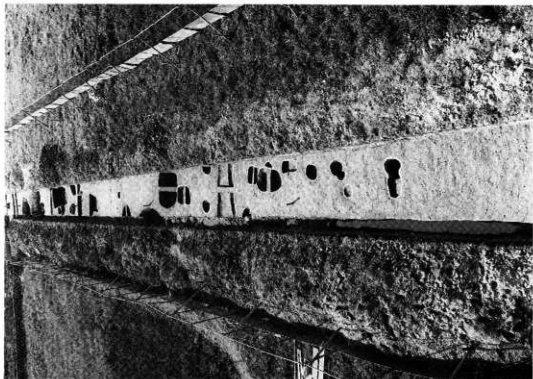
同 第2調査面北部（南から）



第2調査区 第2調査面南部(南から)



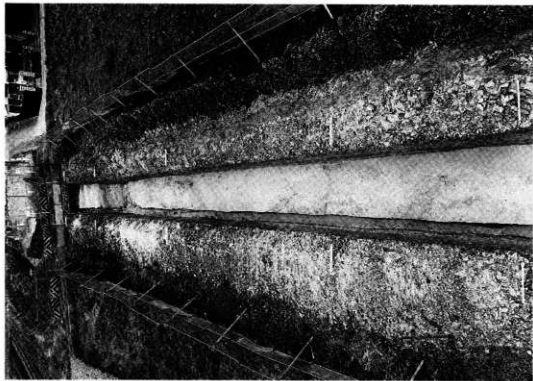
同 第2調査面北部(北から)



第4調査区 第1調査面全景（東から）



同 第2調査面全景（東から）



第3調査区 第1調査面全景 (南から)



第5調査区 第1調査面全景 (西から)

4 や おみなみ 八尾南遺跡（第6次調査）

調査地 八尾市西木の本3丁目・4丁目地内

調査期間 昭和62年1月7日～1月31日

調査面積 120㎡

はじめに

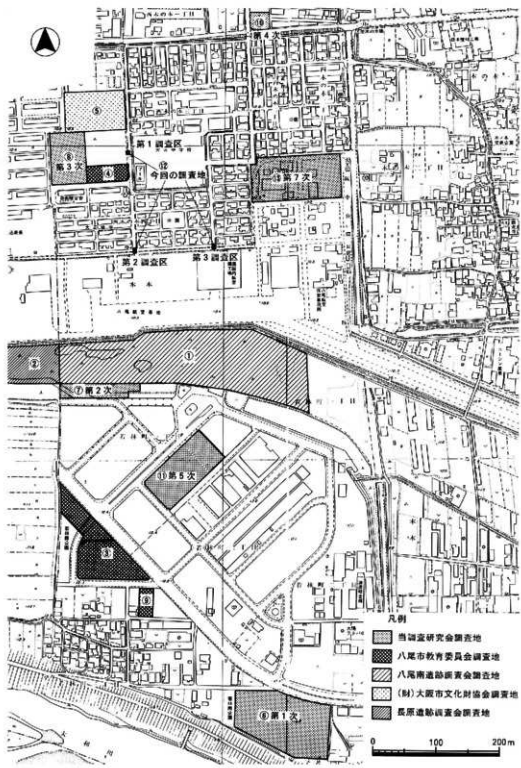
今回の発掘調査は公共下水道工事に伴って実施したもので、当調査研究会が八尾南遺跡で実施した発掘調査の第6次調査にあたる。

八尾南遺跡は、南から伸びる羽曳野丘陵の先端（河内台地）と河内平野が融合する部分に位置しており、現在の行政区画では若林町・西木の本一帯（地下鉄谷町線八尾南駅周辺）にあたる。西隣に位置する大阪市長原遺跡は、市域の違いによって名称を異にしているだけで、当遺跡とは同一の遺跡と考えられている。当遺跡周辺には、東に木の本遺跡、西に長原遺跡（大阪市）・瓜破遺跡（同）、北には城山遺跡（大阪市）・亀井遺跡等が位置している。南には太田遺跡・大正橋遺跡、大和川を挟んで小山遺跡（藤井寺市）・津堂遺跡（八尾市・藤井寺市）がある。

当遺跡は、昭和53～54年度に八尾南遺跡調査会が実施した発掘調査の結果から、長原遺跡とともに旧石器時代～鎌倉時代の複合遺跡として認識されている。この調査以後、当遺跡範囲内では開発件数が増加し、昭和60年度までに、八尾市教育委員会・当調査研究会によって計8件の発掘調査が実施されている。今回の調査地は、これらのうち、市教委昭和56年度調査地（④）

周辺の発掘調査一覧表

番号	調査主体	調査期間	文 献	発行
①	八尾南遺跡調査会	53年4月～55年3月	八尾南遺跡	1981.3
②	長原遺跡調査会	53年7月～54年8月	大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告Ⅱ	1982.
③	八尾市教育委員会	55年12月～56年1月	大阪市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度； 附八尾市文化財調査研究会報告2	1983.8
④	同 上	56年6月～56年7月	同上	1983.3
⑤	關大阪市文化財協会	57年12月～58年3月	大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告Ⅲ	1983.3
⑥	当調査研究会(第1次)	58年2月～58年6月	昭和58年度事業概要報告； 附八尾市文化財調査研究会報告5	1984.4
⑦	同 上(第2次)	59年1月～59年7月	昭和59年度事業概要報告； 附八尾市文化財調査研究会報告7	1985.4
⑧	同 上(第3次)	59年7月～60年9月	八尾市埋蔵文化財発掘調査概報昭和59年度； 附八尾市文化財調査研究会報告6	1985.3
⑨	八尾市教育委員会	59年7月	八尾市内遺跡昭和59年度発掘調査報告書； 八尾市文化財調査報告11	1985.3
⑩	当調査研究会(第4次)	59年10月～59年11月	昭和59年度事業概要報告； 附八尾市文化財調査研究会報告7	1985.4
⑪	同 上(第5次)	61年9月～62年7月	来年度報告予定	—
⑫	同 上(第6次)	62年1月	今回報告	—
⑬	同 上(第7次)	62年2月～62年7月	来年度報告予定	—

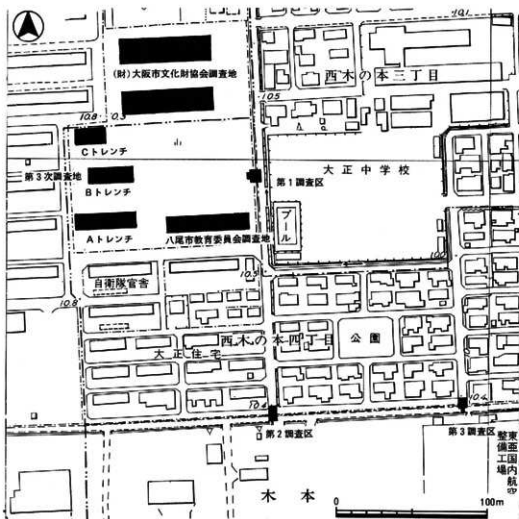


第6図 調査地周辺図

および当調査研究会第3次調査地(⑧)の東に近接している。市教委調査地では平安時代末期の水田と古墳時代中期の集落を検出し、第3次調査地ではそれらに加えてさらに一時期遡る古墳時代初頭の水田が^{註2}検出されている(一覧表・第7図参考)。
^{註3}

調査概要

今回の発掘調査は下水道管布設(シールド工法)に伴うもので、竖坑部分3箇所を調査対象とした。3箇所の調査区は、北西部を第1調査区・南西部を第2調査区・南東部を第3調査区と付称した。掘削に際しては、八尾市教育委員会の調査指示書に基づいて、近接するこれまでの調査地(市教委昭和56年度調査・当調査研究会第3次調査)の調査結果を参考にし、現地地表下1.7m(標高8.4m)前後までの土層を機械掘削で排除し、以下0.5~0.8mまでの各層については人力掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。



第7図 調査区設定図

調査の結果、各調査区で、既往調査地で検出した平安時代と古墳時代の遺構面に相当すると考えられる土層を検出したが、ともに遺構・遺物は認められなかった。

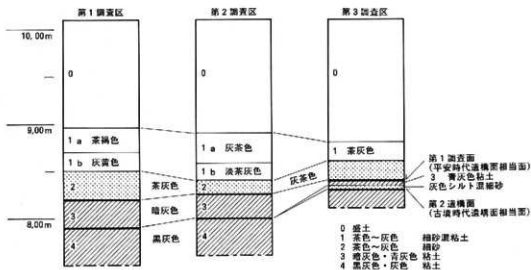
古墳時代の遺構面に相当する土層は、第1調査区・第2調査区では現地地表下2.3m付近に堆積する黒灰色砂粘土で、上面の標高は8.0m前後である。第3調査区では現地地表下1.9m付近に堆積する灰色粘土で、上面の標高は8.3m前後である。第3調査区の灰色粘土上面には灰色シルト混細砂が4cm程度の厚さで堆積していることから、一時期に帯水していたことが窺える。

平安時代の遺構面に相当する土層は、第1調査区・第2調査区では黒灰色粘土直上の暗灰色粘土で、上面の標高は8.2~8.3m程度である。第3調査区では灰色シルト混細砂の上部に青灰色粘土が6cm程度堆積している。上面の標高は8.4m前後である。各層上面には洪水に起因すると考えられる茶灰色~灰茶色細砂が20~30cmの厚さで堆積しており、既往調査の平安時代埋没水田の堆積状況と同様であるが、水田遺構に特有のマンガン斑・鉄分の沈着・波状痕跡等が皆無であったため、当調査地周辺は未耕地であった可能性が高い。

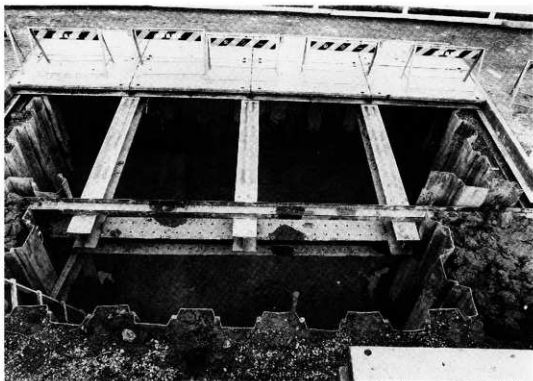
まとめ

今回の調査では、既往調査で検出した古墳時代と平安時代の遺構・遺物を確認することはできなかったが、当遺跡の集落の範囲を推定するうえで、一つの資料となったと考えられる。

- 註1 八尾南遺跡調査会「八尾南遺跡」一大阪市高速電気軌道2号線建設に伴う発掘調査報告書 1981, 3
 註2 (財)八尾市文化財調査研究会「八尾南遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報1980・1981年度』;(財)八尾市文化財調査研究会報告2 1983, 8
 註3 (財)八尾市文化財調査研究会「八尾南遺跡発掘調査概要報告」『八尾市埋蔵文化財発掘調査概報昭和59年度』;(財)八尾市文化財調査研究会報告6 1985, 3



第8図 層序模式図



第1調査区 第1調査面全景（西から）



同 第2調査面全景（西から）



第2調査区 第1調査面全景（南から）



第3調査区 第2調査面全景（南から）

5 東弓削遺跡（第2次調査）

調査地 八尾市東弓削102-1他

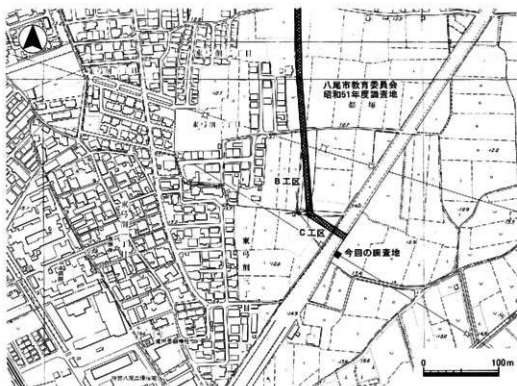
調査期間 昭和61年12月5日～12月13日

調査面積 50㎡

はじめに

今回の発掘調査は、関西電力(株)の鉄塔建設に伴うもので、当調査研究会が東弓削遺跡内で実施した発掘調査の第2次調査にあたる。

当遺跡は、長瀬川から玉串川が分岐する「二俣」地区の北に広がる沖積地上に位置しており、現在の行政区画では、東弓削・都塚・八尾木一带にあたる。当遺跡の所在する沖積地は、八尾市域の中央部を南東から北西に伸びるもので、当遺跡をはじめとして数多くの遺跡が立地している。当遺跡の北は中田遺跡と接し、さらに北～北西には小阪合遺跡・成法寺遺跡などが連なっ



第9図 調査地周辺図

て位置している。また、当遺跡の東には玉串川を挟んで恩智遺跡、長瀬川を挟んで南に弓削遺跡、西に老原遺跡が位置している。

当遺跡周辺は、その地名が示すように古代には弓削連が支配していた地域で、奈良時代に西の京造宮を推進した僧道鏡の出身地としても知られている。この付近では、昭和42年国道170号線（大阪外環状線）敷設工事の際多量の土器が出土したことから、山本博氏はこの地域に道鏡と称徳天皇に因む「弓削寺（由義寺）・西の京（由義宮）が所在した」と考察された。さらに、奈良時代のほか弥生時代の遺物も含まれていることから、この地が弥生時代以降の複合遺跡であることを明らかにされた。

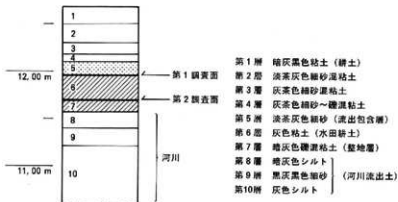
昭和50年度には、八尾市教育委員会による発掘調査が実施され、弥生時代から鎌倉時代に至る遺構・遺物が検出された。なかでもB工区からC工区にかけての約300mで、奈良時代から鎌倉時代末期の瓦片・凝灰岩片・北宋銭などを含む礫混じりの層が検出されたことから、山本昭氏は「ここに礫敷で凝灰岩、瓦を用いた建物の旧存したこと……この建物は奈良時代にはじまり鎌倉時代末期のころまで存続していたこと、廃絶後は旧地が整地され水田化したこと」と考察された。次いで昭和51年度に八尾市教育委員会が実施した発掘調査でも、弥生時代後期

～中世の遺物包含層を確認している。さらに、昭和57年度に当調査研究会が実施した第1次調査では、古墳時代前期の遺物包含層と平安時代末期～鎌倉時代の水田遺構を検出している。

今回の調査地は、市教委昭和50年度調査地から、約30m南の地点にあたる。

調査概要

鉄塔建設予定地にあわせて調査区を設定し、調査を実施した。掘削に際しては、八尾市教育委員会の調査指示書に基づき、市教委昭和50年度調査の調査結果を参考にして、現地地表0.5m（標高12.2m）前後までの土層を機械掘削で排除し、以下約0.5mまでに堆積する土層については人力掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。



第10図 層序模式図

調査の結果、現地表下0.7m付近の灰色粘土層上面で水田遺構を検出し、その直下で市教委昭和50年度調査で検出された鎌倉時代末期以降の整地層に対応すると考えられる土層（暗灰色礫混粘土）を検出した。これら2面の調査終了後、さらに下層の状況を把握する目的で、調査区北部の1箇所を約1m機械掘削し、以下の土層菜理を観察した。

調査区内の堆積土層は概ね以下のとおりである。このうち第8層以下が、下層の機械掘削によって部分的に確認した土層である。

第1層 暗灰黒色粘土 層厚20cm前後 調査前までの水田耕作土である。現地表面の標高は12.7m前後である。

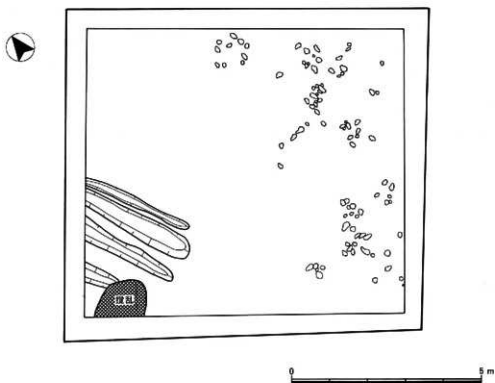
第2層 淡茶灰色細砂混粘土 20cm前後

第3層 淡茶色細砂混粘土 7～15cm

第4層 灰茶色細砂～礫混粘土 6～11cm

第5層 淡灰茶色細砂 15cm前後 流出包含層である。瓦器・土師器等の磨耗をうけた細片をわずかに含む。

第6層 灰色粘土 25cm前後 水田耕作土である。上面が第1調査面、上面の標高は11.95m前後である。



第11図 検出遺構平面図（第1調査面）

第7層 暗灰色礫混粘土 10~17cm 第6層の床土である。瓦器・土師器・瓦等の細片を含む整地層である。上面が第2調査面、上面の標高は11.7m前後である。

第8層 暗灰色シルト 15~20cm

第9層 暗灰黒色細砂 20cm

第10層 灰色シルト 60cm以上

} 旧大和川の氾濫に起因する土層

第6層上面では、犂のすき跡と考えられる小溝4条および多数の足跡状遺構を検出した。溝は調査区西部で検出したもので、15~50cmの間隔を持ち、ほぼ南北に平行して伸びている。検出長1~3m・幅15~60cm・深さ5~10cmを測り、断面はU字型を呈する。足跡状遺構は調査区東部に密集しており、円形のもの足形を呈するものが見られる。前者は径5~10cm・深さ10cm前後、後者は幅5~15cm・長さ20cm前後・深さ10cm前後を測る。溝・足跡状遺構ともに、内部は上層に堆積する第5層淡茶灰色細砂で充填されている。

第7層は粘土を主体とした礫混じりの固い層で、市教委昭和50年度調査地のB~CⅠ区で検出した整地層と同一のものである。この層上面を第2調査面として調査を続行したが、遺構・遺物の存在はなかった。

まとめ

今回の調査では、市教委昭和50年度調査と同様、上層で水田遺構、下層で整地層を検出した。

下層で検出した整地層は、市教委調査地BⅠ区中央から連続するもので、その範囲はさらに南へ広がる事が明らかとなった。市教委の調査および今回の調査でもこの層中に奈良時代~鎌倉時代末期の瓦片が含まれており、『東弓削遺跡』の報文では近隣に瓦葺きの建物があつたと想定されている。

上層で検出した水田遺構については、時期を決定できるような資料は得ていないが、『東弓削遺跡』の報文では整地の時期と水田の時期はあまり隔たらないとされていることから、鎌倉時代末期以降の一時期が考えられる。

註1 山本博 『竜田組』 学生社 1971

註2 八尾市教育委員会 『東弓削遺跡』 大阪府水産部治水普及工事に伴う埋蔵文化財調査：八尾市文化財調査報告3 1976、4

註3 八尾市教育委員会 『東弓削遺跡<八尾水東地区>』『昭和51・52年度埋蔵文化財発掘調査年報』：八尾市文化財調査報告4 1979、3

註4 (財)八尾市文化財調査研究会 『東弓削遺跡：市立曙川南中学校校舎地盤に伴う発掘調査概要』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査-その成果と概要-』 1983、3



第1調査面全景（北東から）



第2調査面全景（北東から）

6 ^{た い なか} 田井中遺跡（第4次調査）

調査地 八尾市志紀町西3丁目地内

調査期間 昭和61年12月10日～昭和62年3月25日

調査面積 1283㎡

はじめに

今回の発掘調査は国家公務員合同宿舎建て替えに伴うもので、当調査研究会が田井中遺跡内で実施した発掘調査の第4次調査にあたる。

当遺跡は長瀬川と平野川に挟まれた沖積地に位置しており、現在の行政区画では田井中4丁目を中心として広がっている。当遺跡の周辺には、同様の立地条件で南東に弓削遺跡、西に木の本遺跡、北西に太子堂遺跡・植松遺跡、北に老原遺跡が位置している。

当遺跡発見の契機は、陸上自衛隊八尾駐屯地内での工事で、弥生時代前期～後期と古墳時代～奈良時代の土器が出土したことによるが、出土状況等の詳細は不明であった。ところが、昭和57年度に当調査研究会が同駐屯地内で第1次調査を実施した結果、弥生時代前期^{註1}～中期と古墳時代中期の遺物包含層のほか、小穴1個を検出した。遺物包含層については二次堆積の可能性が考えられるが、小穴を検出したことから、時期は明確にできないものの、生活面の存在が明らかとなった。さらに昭和59年度にも当調査研究会は、同駐屯地内で第2次調査を実施しており、その結果、弥生時代中期と古墳時代前期の遺構を検出し、当遺跡に弥生時代と古墳時代前期の^{註2}二時期の生活面があったことが明らかとなった。^{註3}

一方、これら調査地の北東500～600mの地区は、府営住宅・市営住宅・公務員宿舎等が建ちならぶ住宅地であるが、老朽化が進んでおり、昭和58年度から随時建て替えが進められている。大阪府教育委員会ではこの付近一帯を「志紀遺跡」と付称し、昭和58年度に府営住宅建て替えに伴う発掘調査を実施した結果、古墳時代の水田遺構が検出されている（府教委昭和58年度調査）。続いて昭和60年度にも大阪府教育委員会は志紀町西1丁目と同様の発掘調査を実施しており、奈良時代の遺構のほか、奈良時代から鎌倉時代に対応する土層中で数枚の水田耕土が確認されている（府教委昭和60年度調査）。^{註4}

同じく昭和60年度に当調査研究会では、上記2件の調査地に隣接する志紀西3丁目にて国家公務員合同宿舎建て替えに伴う発掘調査（第3次調査）を実施しており、その結果平安時代末期と奈良時代の水田遺構を検出した。今回の発掘調査は、第3次調査地と同じ敷地内で実施したものである。^{註5}

調査概要

2棟の宿舍建設予定地にあわせて調査区を設定し、調査を実施した。調査区の名称は、第3次調査(第1調査区～第3調査区)との関係から、北側を第4調査区・南側を第5調査区と付称した。掘削に際しては、八尾市教育委員会の調査指示書・第3次調査の結果を参考に、現地表下2.0m(標高10.0m)前後までに堆積する土層を機械掘削で排除し、以下の各層は人力掘削によって遺構・遺物の検出に努めた。なお、第3次調査では奈良時代の水田は部分的に掘り下げて検出したのみであったが、今回の調査では奈良時代の水田も平面的な調査対象としたため、最終の掘削深度は現地表下3.5mに達する。

調査の結果、第3次調査の結果と同様、奈良時代と平安時代の埋没水田等を検出した。さらに下層確認の小トレンチでは、古墳時代中期以降の埋没水田をトレンチ壁面で確認した。

・第4調査区

奈良時代の水田面は現地表下3.0m(標高9.2m)前後の暗灰色粘土上面で、ここでは水田14筆を検出した。畦畔は南東―北西方向のもの7条、南西―北東方向のもの8条があり、幅



第12図 調査地周辺図

0.6~1.2m・高さ5~10cm程度を測る。水田面には足跡状遺構の窪みが多数遺存しており、内部・水田上面には灰色中砂が堆積している。調査区が限定されているため、一筆耕地が確認できた水田はなかったが、検出部から一辺7~8mの正方形に復元できるものと3~4m×7~8mの長方形に復元できるものがある。

平安時代末期の水田面は現地地表下2.5m(標高9.7m)前後の青灰色粘土上面で、ここでは水田3筆のほか、調査区東部で南北に伸びる流路を検出した。畦畔は南北方向のもの2条があり、幅1.2m前後・高さ10cm前後を測る。奈良時代の水田と同じく水田面には無数の足跡状遺構が遺存し、内部・水田上面には灰色シルトが堆積している。ここでも一筆耕地は確認できていないが、2条の畦畔の間隔は18~19mを測る。

・第5調査区

奈良時代の水田面は標高8.8m前後の暗灰色粘土上面で、ここでは水田17筆のほか、調査区東部で南東から北西に伸びる溝を検出した。畦畔は南東—北西方向のもの7条・南西—北東のもの6条で、幅・高さ等は第4調査区の畦畔と同様である。足跡状遺構内部・水田上面の堆積土層は、東部が赤褐色粘土と灰色シルトの互層・中央部が灰色シルト・西部が灰色中砂である。ここでも一筆耕地を完全に検出し得たものはなかったが、4×7m・4×5m程度の長方形に復元できる水田が2筆ある。なお、水田面の標高は概ね一定しているが、西側の3筆は8.9m前後、そこから東側は畦畔を境として20~30cm低い。

平安時代末期の水田面は標高9.4m前後の青灰色粘土上面で、ここでは水田8筆のほか、調査区中央部で南北方向の流路を検出した。この流路は第4調査区で検出した流路と同一の可能性があり、畦畔は南北方向のもの6条、東西方向のもの1条で、このうち東西方向のものは検出部幅3mを超えるもので、水田構築の主軸となる大畦畔の可能性があり、足跡状遺構内部・水田上面の堆積土層は、流路を挟んで東側は灰色シルト・西側は黄灰色中~粗砂と異なり、水田の東西幅も流路を境として東は5m前後・西は10m前後と異なっている。

・下層確認トレンチ

第4調査区の奈良時代水田面以下0.2m(標高8.9m)前後の暗褐色粘土上面で、畦畔状の高まり・足跡状遺構の窪みを確認したこと、この暗褐色粘土も水田耕作上の可能性がある。上面には暗青色砂混粘質土・青灰色細砂~中砂等が堆積していることから、この水田も洪水によって埋没したことが窺える。

まとめ

今回の調査では、第3次調査で検出した平安時代末期と奈良時代の埋没水田が、ともに広範囲にわたって構築されていることが明確となり、第3次調査の結果を裏づけることができた。また、この二時期の遺構面では流路・溝を検出したことから、取水・排水施設を含めた水田遺

構の景観を復元することができる。それらに加え、さらに下層でも水田耕作土の可能性のある粘土を確認していることから、当遺跡には三時期にわたる埋没水田のあることが判明した。この最下層の水田の埋没時期は、上面の堆積土層からの出土遺物がなかったため直接推測できないが、粘土直下の砂混粘質土から布留式甕の破片が数点出土している。

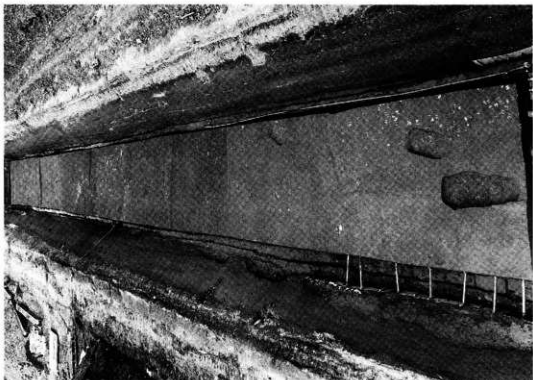
- 註1 八尾市教育委員会 『東弓削遺跡』大阪府水道部送水管布設工事に伴う埋蔵文化財調査：八尾市文化財調査報告 3 1976. 4
- 註2 (財)八尾市文化財調査研究会 『田井中遺跡：陸上自衛隊八尾駐屯地内浴場増築に伴う発掘調査概要』『昭和57年度における埋蔵文化財発掘調査—その成果と概要—』1983. 3
- 註3 (財)八尾市文化財調査研究会 『田井中遺跡(第2次調査)』『昭和59年度事業概要報告』：(財)八尾市文化財調査研究会報告7 1985. 4
- 註4 大阪府教育委員会文化財保護課技師福田英人氏より御教示いただいた。
- 註5 (財)八尾市文化財調査研究会 『田井中遺跡(第3次調査)』『昭和60年度事業概要報告』：(財)八尾市文化財調査研究会報告9 1986. 4



第4調査区 第1調査面全景（東から）



同 第2調査面全景（東から）



第5調査区 第1調査面全景(東から)



同 第2調査面全景(東から)

7 やはぎ 矢作遺跡（第1次調査）

調査地 八尾市高美町3丁目46-1

調査期間 昭和61年12月20日～昭和62年3月20日

調査面積 1000㎡

はじめに

今回の発掘調査は八尾税務署の建設に伴って実施したもので、当調査研究会が矢作遺跡内で実施した最初の調査である。

当遺跡は旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置しており、現在の行政区画では南本町5丁目～7丁目・高美町3丁目・4丁目にあたる。当遺跡周辺で当遺跡と同様の立地条件を示す遺跡は、南に東引削遺跡、東に中田遺跡・小阪合遺跡、北には成法寺遺跡・東郷遺跡・萱振A遺跡・萱振B遺跡・山賀遺跡等がある。

当遺跡では、昭和55年度以降矢作神社周辺で、八尾市教育委員会による調査が数件実施されており、古墳時代と鎌倉時代の遺構が検出されている。昭和61年3月～4月に高美町3丁目で



第13図 調査地周辺図

八尾市教育委員会が実施した発掘調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の溝・古墳時代後期の大型掘立柱建物・鎌倉時代以降の耕作に伴う小溝等が検出され、当遺跡が弥生時代後期から中世に至る複合遺跡であることが明確になった（市教委昭和60年度調査）。今回の調査地は、^{註1}この調査地から南東約150m付近に位置する。

調査概要

建設予定地にあわせて調査区を設定し、調査を実施した。掘削に際しては八尾市教育委員会の調査指示書に基づいて、現地表下1.2mまでに堆積する土層を機械掘削によって排除し、以下0.6mについては上層栗理に従って人力掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、現地表下1.5m（標高9.0m）前後の黄褐色砂質土上面で、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代後期～鎌倉時代後期・室町時代の四時期の遺構・遺物を検出した。

弥生時代後期の遺構には、溝1条（SD-1）がある。調査区北東部に検出したもので、南東一北西方向に伸びる。内部からは、畿内第Ⅴ様式の壺・甕・鉢等が少量出土している。

古墳時代後期の遺構には、溝1条（SD-2）がある。弥生時代後期の溝SD-1の南側を同方向に平行して伸びるもので、内部から土師器甕・須恵器蓋杯・須恵器鉢等がごく少量出土している。

平安時代後期～鎌倉時代後期の遺構には、掘立柱建物3棟（SB-1～SB-3）・井戸13基（SE-1～SE-13）・土坑7基（SK-1～SK-7）・溝4条（SD-3・SD-4・SD-9・SD-14）・池状遺構1基がある。これらのうち土坑SK-5からは、出現期の瓦器碗を主として、11世紀末葉から12世紀初頭に比定できる土師器小皿・土師器中皿・土師器羽釜等が多量に出土している。池状遺構は底部一面に樹皮が貼り付けられたもので、内部から13世紀に比定される遺物が少量出土している。溝SD-14からは13世紀末葉の遺物が多量に出土しており、集落内を区画する溝の可能性が考えられる。

室町時代の遺構には、溝17条（SD-5～SD-8・SD-10～SD-13・SD-15～SD-18）がある。すべて南南西一北北東に伸びる。これらは、幅0.2～0.5m・深さ5cm程度のものと、幅0.8～1.7m・深さ10cm程度のものに二分できる。前者は断面U字形を呈し、内部堆積土は一様に黒灰色砂質土のみであることから、耕作に伴う犁痕と考えられる。

まとめ

今回の調査では、弥生時代後期・古墳時代後期・平安時代後期～鎌倉時代後期・室町時代の四時期の遺構を検出した。

弥生時代後期の遺構は溝1条を検出したのみであるが、遺構検出土層および遺物包含層からは多数の遺物が出土している。とくに遺構検出土層からは、遺構に伴わないものの良好な資料が出土しており、市教委昭和60年度調査地の同時期の遺物出土状況に類似している。これらか

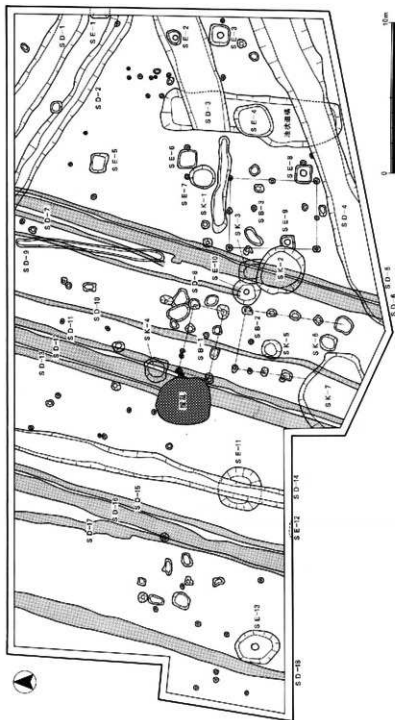
ら、両調査地の近隣にこの時期の遺構が存在する可能性が高い。

古墳時代後期の遺構も溝1条を検出したのみである。前述の市教委調査では、同時期の掘立柱建物3棟と溝が検出されており、両調査地点間の有機的な関係が示唆できよう。

平安時代後期～鎌倉時代後期の遺構には、掘立柱建物3棟・井戸13基・土坑7基・溝4条・池状遺構1基がある。これらからなる集落は約200年にわたって継続して営まれていたことが確認されたが、遺構を時期ごとに区別すれば鎌倉時代後期に比定されるものが多く、この時期に集落内での活動が活発であったことが窺える。

室町時代の遺構は溝17条を検出した。これらは耕作に関連する小溝と考えられ、この時期の調査地付近は田畑として利用されていたことが明らかとなった。

註1 八尾市教育委員会「矢作遺跡発掘調査概要」『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅱ』：八尾市文化財調査報告15 1987, 3



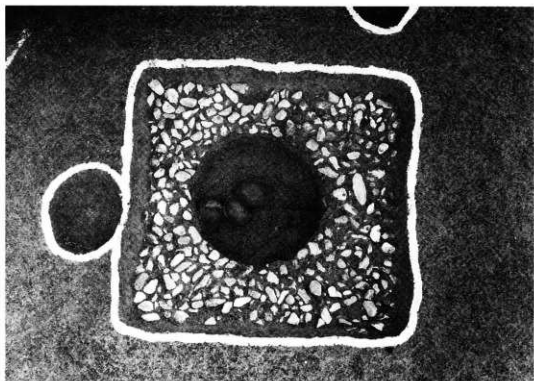
第14図 跡出遺構平面図



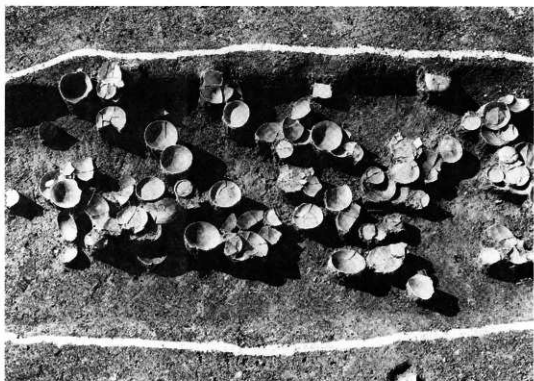
調査区全景（東から）



S B-2（北から）



SE-8 (北から)



SD-14遺物出土状況

8 はなおかやま 花岡山遺跡（第1次調査）

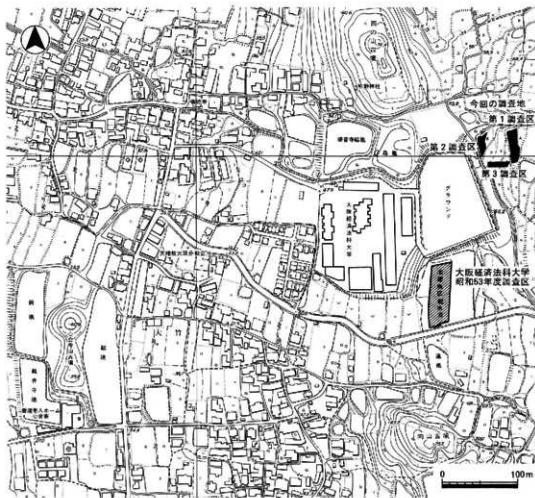
調査地 八尾市楽音寺824他

調査期間 昭和62年1月12日～3月28日

調査面積 695 m²

はじめに

今回の調査は大阪経済法科大学の運動施設建設に伴って実施したもので、当調査研究会が花岡山遺跡内で実施した最初の調査である。



第15図 調査地周辺図

当遺跡は生駒山地西麓に形成された扇状地上に位置しており、現在の行政区画では楽音寺6丁目付近にあたる。この地域一帯は、他の生駒山地西麓と同様、谷口扇状部が発達した地域で、さらに傾斜変更線付近には洪積世丘陵である西の山・花岡山（現在は消滅）・向山等が存在している。当遺跡周辺は古くから古墳が多く存在することが知られており、東に中谷山古墳、南に愛宕塚古墳、西には前述の独立丘陵上に西の山古墳・花岡山古墳・向山古墳が立地し、さらに西には心合寺山古墳が位置している。また、集落遺構や寺跡などもこれらに重複・近接して存在しており、南から西には大竹遺跡・心合寺跡・大竹西遺跡・楽音寺遺跡・北には大光寺山遺跡（大光寺跡）がある。

当遺跡発見の契機は、昭和53年9月に八尾市水道局が実施した北部低区配水池の工事中、配水池構築予定地の南西部で東西50m・南北15mにわたって中世の遺物を包含する土層が広がること、大阪経済法科大学考古学研究会の一人によって確認されたことによる。その結果、同考古学研究会が主体となって緊急発掘調査が部分的に実施され、鎌倉時代に比定される柱穴群・礎石・小溝等を検出し、この地点を中心として鎌倉時代の建物が存在していたことが確認された。また、これらの遺構に伴う遺物以外にも、縄文時代の石鏃や古墳時代の須石器・円筒埴輪の破片が出土しており、当遺跡が複合遺跡の性格をおびた可能性が強いと考えられてきた。今回の調査地は、この調査地から北東200～300mに位置する。

調査概要

調査対象地は西側に下る地形で、階段状に整備されたテラス部分は、調査前まで水田として利用されていた。テラス部分は5段（最下段から上段へ1～5と付称）あり、テラス5の全域に第1調査区・テラス1の西半に第2調査区・テラス3・4の南部に第3調査区を設定した。掘削に際しては、八尾市教育委員会の調査指示書に基づいて、上層から0.8mまでに堆積する土層すべてを人力掘削とし、試掘調査で確認された弥生時代中期・中世・近世の遺物包含層に対応する遺構を追求することを目的とした。その結果、各調査区で中世末期の整地層と整地以前の旧地形を確認した。

・第1調査区

現地表下0.3m（標高66.7m）前後で中世末期の整地層を検出した。そこより0.1～0.9m下部で整地以前の旧地形である地山面を検出した。

旧地形は西側に下り、高低差は0.8mを測る。花崗岩の風化した砂粒が優性な土質で、地山面には露頭した花崗岩が散見される。なお、調査区南部は南へ落ち込む谷状地形を呈しており、その部分はグライ化した粘質土の堆積が認められた。遺物は、地山面直上から縄文時代の石匙・古墳時代後期の土師器甕が出土した。

整地層上面では、集石群・土坑1基（SK-1）・溝1条（SD-1）を検出した。集石群



第1調査区 第1調査面全景（南から）



同 第2調査面全景（南から）

中には、中世の日常雑器の破片が少量認められた。SK-1からは、15世紀初頭に位置づけられるH常雑器のほか、青磁碗・瓦等が多量に出土している。SD-1からは、瓦質土管の破片が出土しており、近世以降の遺構と考えられるが、時期は不明である。

・第2調査区

第1調査区同様2面を調査対象としたが、整地層上面では顕著な遺構の検出はなかった。地山面は、調査区中央を境として北へゆるやかに下っていることが判明した。耕土・整地層中からは、中世・近世に比定される土器・陶器・磁器の破片の他、軒平瓦1点が出土している。この軒平瓦は、当調査地の北方100m付近に位置する大光寺山古墳（大光寺跡）出土の鎌倉時代の軒平瓦と同意匠のものである。

・第3調査区

第1調査区・第2調査区同様2面について調査を実施した。地山面は西側へゆるやかに下っている。整地層上面では小溝8条を検出した。その形状から、耕作に関する犁痕と考えられる。

まとめ

今回の調査では、試掘調査で包含層を確認した弥生時代中期および中世・近世の集落の有無を確認することを主眼とした。弥生時代中期に関しては、当調査地が標高60～70mにあたることから、いわゆる高地性集落として捉えることが必要であると考えられたが、遺構・遺物は認められなかった。一方、弥生時代後期の土器片が出土していることから、後期の集落が調査地付近に存在した可能性が高い。

中世・近世に関しては、第1調査区で15世紀に比定される土坑を検出したほか、包含層からは鎌倉時代から江戸時代に至る日常雑器類の破片が出土しており、13世紀前半以降にはこの付近に集落が営まれていたことが推定される。

註1 大原経済法科大学考古学研究室内花園遺跡発掘調査団「花園遺跡発掘調査概報」1979、3

9 とうご 東郷遺跡 (第23次調査)

調査地 八尾市荏内町1丁目地内

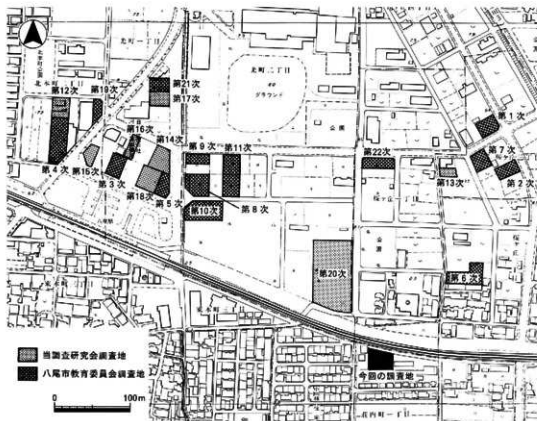
調査期間 昭和62年2月16日～3月18日

調査面積 598㎡

はじめに

今回の発掘調査はマンション建設に伴うもので、八尾市教育委員会・当調査研究会が東郷遺跡内で実施した発掘調査の第23次調査にあたる。

当遺跡は長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地上に位置しており、現在の行政区画では北本町・東本町・光町・桜ヶ丘・荏内町一帯にあたる。当遺跡の所在する沖積地は八尾市域の中央部を南東から北西へ伸びるもので、多くの遺跡が立地している。当遺跡の周辺には、南東に小阪合遺跡、北西に宮町遺跡、北東に萱振B遺跡が位置しており、南西部は成法寺遺跡と接している。



第16図 調査地周辺図

当遺跡発見の契機は、昭和46年に東本町2丁目の光明寺裏で行われた水道管敷設工事の際、墨書人面土器が出土したことによるが、出土地点や層位などの詳細は不明であった。その後昭和56年1月に桜ヶ丘3丁目8で八尾市教育委員会が実施した第1次調査では、古墳時代から鎌倉時代に至る遺構・遺物を検出し、当遺跡が複合遺跡であることが明確となった。以後、昭和60年度までに計22回にわたる発掘調査が断続的に実施されており、当遺跡では、とくに古墳時代前期の遺構・遺物が良好に遺存していることが明らかになった。今回の調査地は第20次調査地から南東約100m付近に位置する。^{註2}

調査概要

建物の基礎部分に調査区を設置し、調査を実施した。掘削に際しては八尾市教育委員会の調査指示書に基づいて、現地地表下約1.3mまでに堆積する上層を機械掘削によって排除し、以下の各層については土層整理に従って人力掘削を行い、遺構・遺物の検出に努めた。調査の結果、現地地表下1.6m（標高7.4m）前後の黄灰褐色～淡灰黄色シルト層上面で、古墳時代前期の土坑16基（SK-1～SK-16）・溝10条（SD-1～SD-10）・小穴28個（SP-1～SP-28）を検出した。遺構検出面は北西部が高く南東部へゆるやかに下っており、遺構は主に調査区北西部で多く検出された。

土坑のうち、SK-6・SK-15はともに内部に炭・灰を多量に含むもので、SK-6からは布留式古相に比定される土器の破片が出土し、SK-15からは庄内式古相に比定される土器の破片が出土している。溝はほとんどが不規則に伸びているが、SD-1とSD-2は南西～北東方向に平行に伸びている。幅0.1～0.5m・深さ0.04～0.3mを測り、断面は半円形・U字形を呈している。内部からの出土遺物はほとんど認められなかった。小穴には柱痕の残るものもあり、建物を構成する柱穴が含まれていると考えられるが、建物を復元するには至っていない。また、SP-1の周囲の土は高熱のため赤褐色に変色しており、炉跡等の可能性が考えられる。

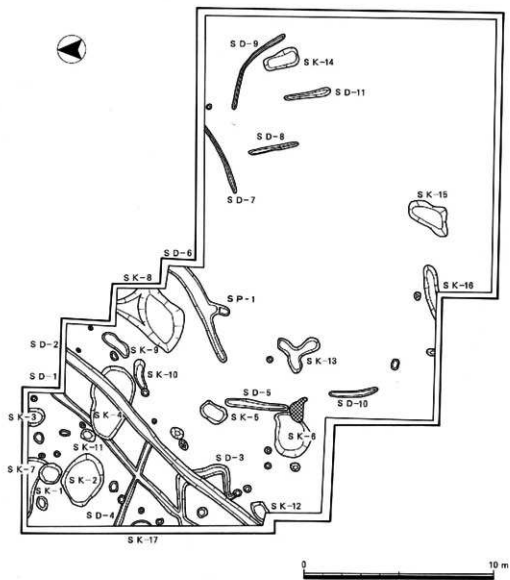
まとめ

調査の結果、古墳時代前期の集落遺構を検出した。今回の調査地は、これまでの調査地のうちではもっとも南東部に位置しており、この時期の集落がさらに南東へ広がることが確実なものとなった。

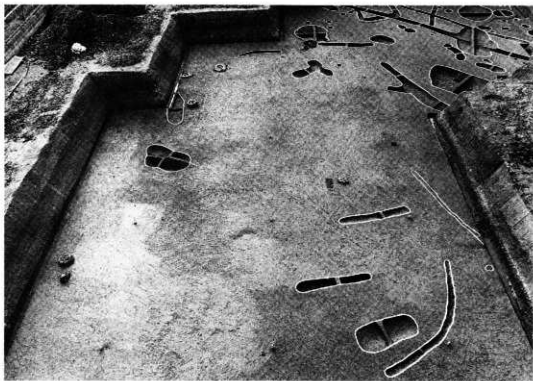
註1 八尾市教育委員会「東郡遺跡発掘調査概要」「八尾市遺跡・東郡遺跡発掘調査概要」1981、3

註2 (財)八尾市文化財調査研究会「東郡遺跡発掘調査概要報告」「八尾市埋蔵文化財発掘調査区報1980・1981年度」:(財)八尾市文化財調査研究会報告2 1983、8

八尾市教育委員会「東郡遺跡の調査」「八尾市内遺跡昭和60年度発掘調査報告書」:八尾市文化財調査報告12 1986、3



第17圖 發掘遺構平面圖



調査区全景（東から）



調査区北西部（北東から）

Ⅲ その他の事業

1 環山楼の公開 八尾市教育委員会からの委託業務

(1) 週2回の公開 毎週月曜日・木曜日 午前10時～午後4時 計101回公開 見学者593人

(2) 催物のための公開

①小学生社会見学

八尾小学校主催 昭和61年6月30日(月)・山本小学校主催 昭和62年1月27日(火)

②八尾まつり

八尾まつり振興委員会主催 昭和61年9月13日(土)・14日(日)

③上海市友好代表団茶席接待

八尾市主催 昭和61年9月14日(日)

④結成10周年記念事業推進式典部会

八尾市郷土文化推進協議会主催 昭和61年10月21日(火)

⑤第33回八尾市民文化祭茶花道展

八尾市中央公民館主催 昭和61年11月14日(火)～18日(土)

2 文化財普及事業

(1) 文化財講座 古墳発掘よもやま話1～3

①「美園遺跡を調査して」講師 渡辺昌宏氏 (財)大阪府埋蔵文化財協会技師

昭和61年6月28日(土) 午後1時30分～3時 教育センター

②「壹振遺跡を調査して」講師 広瀬雅信氏 大阪府教育委員会文化財保護課技師

昭和61年9月20日(土) 午後1時30分～3時 教育センター

③「高安古墳群について」講師 古岡 哲氏 大阪府立清友高等学校教諭

昭和61年11月1日(日) 午後1時30分～3時15分 山本労働会館

(2) ちびっこ文化財夏期学級

火おこし道具作りと火おこしの実験・発掘調査のビデオ鑑賞

昭和61年8月8日(金)～10日(日) 午前10時～12時 教育センター 参加者30人

(3) 展示 「八尾を掘る」 市内で発掘された埋蔵文化財

昭和60年度の発掘調査で検出されたおもな遺構・遺物の紹介

昭和61年9月26日(金)～10月11日(土) 市民サービスコーナー 見学者1192人

(4) 発掘調査現場の見学会 壹振B遺跡第2次調査地 緑ヶ丘2丁目1 府営住宅建設予

定地 昭和61年4月26日(土) 午後1時～2時 見学者124人

3 図書の刊行

- (1) 『昭和60年度事業概要報告』: (財)八尾市文化財調査研究会報告9 昭和61年4月発行 昭和60年度に行ったすべての事業を集録
- (2) 『小阪合遺跡—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—<昭和57年度第1次調査報告書>』: (財)八尾市文化財調査研究会報告10 昭和62年3月発行 昭和57年度に実施した区画整理事業に伴う小阪合遺跡第1次調査の概要報告書
- (3) 『小阪合遺跡—八尾都市計画事業南小阪合土地区画整理事業に伴う発掘調査—<昭和58年度第2次調査・第3次調査報告書>』: (財)八尾市文化財調査研究会報告11 昭和62年3月発行 昭和58年度に実施した区画整理事業に伴う小阪合遺跡第2次調査・第3次調査の概要報告書
- (4) 『八尾あれこれ』: (財)八尾市文化財調査研究会報告12 昭和62年3月発行 昭和58・59年度の文化財講座の一部を集録

4 調査会・講演・研修等の参加・協賛

(1) 研究会の協賛・資料発表

- ①「大阪府下埋蔵文化財担当者研究会(第14回)」に「萱振B遺跡現地説明会資料」発表 (財)大阪文化財センター主催 昭和61年6月15日(日) 大阪マーチャンダイズマートビル
- ②「第4回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会」の協賛 (財)大阪文化財センター主催 昭和61年10月11日(土)・12日(日) 大阪市中央公会堂
- ③「第21回埋蔵文化財研究会」に「弥生・古墳時代の大藤系土器」の資料発表 (財)大阪府埋蔵文化財協会主催 昭和62年2月7日(土)・8日(日) 岸和田市立文化会館

(2) 講演会講師として職員を派遣

- ①「大和川にのぞむ古代文化」 昭和61年度柏原市周辺の発掘調査 柏原市立歴史資料館主催 昭和61年6月14日(日)
- ②「郷土史講座」 山本労働会館主催 昭和62年3月19日(日)

(3) 奈良国立文化財研究所主催研修の参加

- ①「埋蔵文化財基礎課程」埋蔵文化財担当事務職員特別研修 昭和61年8月19日(日)～28日(日)
- ②「遺物取り上げ法課程」埋蔵文化財発掘技術者特別研修 昭和61年10月13日(日)～16日(日)

IV 受贈図書一覽

団 体 名	占 名
北海道 上ノ国町教育委員会	史跡上之國御山越跡調査概報編
神奈川県 神奈川県教育庁	神奈川県埋蔵文化財調査報告28
神奈川県 神奈川県立埋蔵文化財センター	代官山遺跡 神奈川県立埋蔵文化財調査報告11 田名稻荷山遺跡 同上12 東耕地遺跡 同上14 田名稻荷山遺跡の概要 横浜市東郷地遺跡調査の概要 神奈川県立埋蔵文化財センター年報5
静岡県 (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	研究所報№8
愛知県 愛知県教育委員会 (財)愛知県埋蔵文化財センター	愛知県埋蔵文化財情報1 年報80和80年度 埋蔵文化財愛知 第5号～第8号
石川県 金沢市教育委員会	金沢市近岡ナカシマ遺跡 金沢市文化財紀要58号 金沢市無量寺B遺跡Ⅲ・Ⅳ 同上59号 金沢市新保本町ナカモリ遺跡 同上60号 金沢市二口六丁遺跡 同上61号 金沢市歌田ナベタ遺跡 同上62号 昭和60年度金沢市埋蔵文化財調査年報 同上63号
滋賀県 八日市市教育委員会	八日市市文化財調査報告書7
京都府 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	稲葉跡跡1 京都府埋蔵文化財調査報告書第2冊 青野西遺跡 同上第4冊 北金輪遺跡 同上第5冊 狐谷横穴群他 同上第8冊 青野西遺跡他 同上第9冊 近畿自動車造舞鶴線関係遺跡他 同上第10冊 長岡宮跡第140次 同上第11冊 千代川遺跡第3次他 同上第12冊 下代川遺跡第6・7次他 同上第14冊 木津川河床遺跡他 同上第16冊 志高遺跡他 同上第17冊 青野遺跡第9次他 同上第18冊 長岡京跡(立会遺存)他 同上第19冊 京都府埋蔵文化財情報第18号～第21号 京都府遺跡地図 第5回小さな展覧会 芝山遺跡現地説明会資料

京 都 府	城陽市教育委員会	芝ヶ原12号墳調査資料
	精華町教育委員会	白久保地先遣跡第1次発掘調査概報
	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	長法寺谷山遺跡現地説明会資料
	向日市文化資料館	特別展示図録よみがえる古代の文字
奈良 県	奈良国立文化財研究所	奈良国立文化財研究所年報1985 昭和60年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概要 平城宮左京九条三坊十坪発掘調査報告 平城宮跡発掘調査部平城宮第172次発掘調査 同上第173次発掘調査 鹿島藤村宮跡発掘調査部藤原宮第47次発掘調査
	田原本町教育委員会	田原本町埋蔵文化財調査概要3 同1.4 唐古・継ムラの弥生人
	天理市教育委員会	天理市埋蔵文化財調査概報1986 天理市文化財だより 第10号～第12号
	橿原町教育委員会	神木坂古墳群
	大和郡山市教育委員会	郡山城第7次遺跡門家岡・東多明発掘調査概要報告 大和郡山市 文化財調査概要2
	奈良大学文化財学科考古学研究室	文化財学報第4集
大 阪 府	大阪府教育委員会	昭和60年度はさみ山遺跡発掘調査概要 昭和60年度国府遺跡発掘調査概要 大里遺跡発掘調査概要Ⅰ 石川左岸伴塚管築造遺跡群発掘調査概要Ⅰ 南化田遺跡発掘調査概要Ⅰ 中田遺跡発掘調査概要 大救城遺構・西町奉行所跡発掘調査概要 洲崎遺跡発掘調査概要 上道跡発掘調査概要 大庭北遺跡発掘調査概要Ⅱ 泉北丘陵内遺跡発掘調査概要Ⅱ 成法寺遺跡発掘調査概要Ⅰ 神並・西ノ辻・鬼虎川遺跡発掘調査概要Ⅱ 大阪府文化財分布図 泉北考古館だより No23～No25 文化財展示室だより No17・No21 大阪府文化財調査速報 節・香・仙 第35号～第40号
	(財)大阪府埋蔵文化財協会	阪南町内埋蔵文化財分布調査報告書 堺宮台跡発掘調査報告書

大阪府	(財)大阪府埋蔵文化財協会	仏並遺跡発掘調査報告書 福富遺跡・仏並遺跡発掘調査事業報告書 泉州の遺跡 三田遺跡(三田之辻遺跡・B地区)現地説明会資料 唐澤遺跡発掘調査 現地説明会資料
	(財)大阪文化財センター	山賀(その5・その6) 伏堂(その2-II) 久宝寺南(その3) 亀井北(その2) 亀井(その2) 城山(その1) 小阪遺跡(その1) 丹上遺跡(その2) 真福寺遺跡調査の概要 松原市観音寺遺跡第2次発掘調査概要 河内の遺宝 近畿自動車道開通遺跡出土遺物写真集 大阪府下埋蔵文化財調査研究会(第15回)資料 第4回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会資料 小阪遺跡 現地説明会資料 太井遺跡(その2) 現地説明会資料
	泉大津市教育委員会	泉大津市寺院美術工芸品調査報告書 泉大津市文化財調査報告書13
	泉佐野市教育委員会	漢遺跡IV 山出遺跡発掘調査報告書 大畑遺跡発掘調査報告書 昭和60年度泉佐野市埋蔵文化財分布調査概要II 昭和60年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要
	茨木市教育委員会	遊久庄遺跡発掘調査概要 太田遺跡発掘調査概要 昭和60年度発掘調査略報
	(財)大阪市文化財協会	葦火 2号~6号
	柏原市教育委員会	柏原市所在遺跡発掘調査概報 柏原市文化財概報1984-VII 柏原市埋蔵文化財調査概要 同上1985-I 明神山系遺跡分布調査 同上1985-II 大黒・大泉南遺跡 同上1985-III 大泉南遺跡 同上1985-IV 烏坂寺 柏原市文化財概報1985-V 高井田横穴群I 同上1985-VI 高井田遺跡I 柏原市文化財概報1985-VII
	柏原市歴史資料館	春季特別展 古代の柏原 秋季特別展 奈良時代のかしわら

大 阪 府	河内長野市教育委員会	河内長野市上原遺跡試掘調査報告書 三日月遺跡調査報告書 同上Ⅱ
	堺市教育委員会	堺西産都市遺跡（S K T112）現地説明会資料 大仙中町遺跡 現地説明会資料
	大東市教育委員会	北条遺跡 現地説明会資料
	大東市北新町遺跡調査会	第2回北新町遺跡 現地説明会資料
	高槻市教育委員会	祝原南遺跡発掘調査概要2
	高槻城跡遺跡調査会	高槻城跡発掘調査概要
	寝屋川市教育委員会	高宮遺跡発掘調査概要報告書 寝屋川市の民俗（年中行事と農家）
	羽曳野市教育委員会	城山遺跡 現地説明会資料
	阪南町教育委員会	山山遺跡・神光寺遺跡発掘調査概要 阪南町埋蔵文化財報告Ⅲ
	東大阪市教育委員会	東大阪市埋蔵文化財包蔵地調査概要27
	(財)東大阪市文化財協会	法通寺 神花遺跡Ⅰ 芝ヶ丘遺跡発掘調査概要 協会ニュース Vol.1 No.2～No.4・Vol.2 No.1
	(財)枚方市文化財研究調査会	出尾盤Ⅱ 枚方市文化財調査第19集 尊延寺 枚方市民俗調査報告3 枚方市文化財年報Ⅵ 津田トッパナ遺跡 現地説明会資料
	松原市教育委員会	松原市遺跡発掘調査概要
	美原町教育委員会	河内錦物師とその作品
	八尾市教育委員会	八尾市文化財調査報告11 八尾市内遺跡財和60年度発掘調査報告書
八尾市広報課	新版八尾の史跡	
大阪大学文学部国史研究室	壱穴式石室の地域性の研究	
古文学研究会	難波古京考	
兵 庫 県	兵庫県教育委員会	兵庫県埋蔵文化財調査年報40和58年度 ひょうごの遺跡 兵庫県埋蔵文化財情報9号・同11号 玉津田中遺跡 現地説明会資料

兵 庫 県	兵庫県教育委員会	初田跡現地説明会資料 但馬国府推定地深田地区発掘調査 現地説明会資料
	兵庫県埋蔵文化財事務所	弥生人のムラとくらし 弥生時代の兵庫 展示会図録No 3
	兵庫県立図書館	専門情報機関要覧兵庫版1983 兵庫県行政資料目録 県の部 同上 市町の部 兵庫県公共図書館雑誌・紀要等紹介月録昭和56年 あわじのうた
	芦屋市教育委員会	埋蔵文化財調査メモリアル 芦屋市文化財調査報告等14集 打出小樋古墳 現地説明会資料
	尼崎市立地域研究史料館	尼崎の文化遺産 弥生から桃山まで
	神戸市教育委員会	昭和58年度 神戸市埋蔵文化財年報 神出・田井遺跡 現地説明会資料
	宝塚市教育委員会	宝塚の古墳 宝塚市文化財資料No 5
	豊岡市教育委員会	長谷・ホツジ谷古墳群、妙雲寺・見手山横穴群 豊岡市文化財調査報告書(14) 豊岡市文化財調査報告書1985 同上(15) 豊岡発掘だより 第1号・第2号 大師山古墳群散策のしおり
播磨町教育委員会	播磨大中遺跡の概要と経過	
香 川 県	高松市教育委員会	兩山浦市墳墓調査報告書 かしが谷2号墳・3号墳発掘調査報告書
	長尾町教育委員会	川上・丸井古墳発掘調査報告書
島 根 県	島根大学附属図書館	山陰地域研究 伝統文化部門分冊第2号
山 口 県	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学構内遺跡調査研究年報II 同上III 同上IV
福 岡 県	北九州市立考古博物館	北九州市立博物館年報1 昭和58・59・60年度 青銅器展覧 共伴遺物とその年代
	九州大学九州文化史研究施設	九州文化史研究所紀要第31号
鹿児島県	鹿児島大学教養部考古学研究室	研究室報NOA第5号
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報1

(財)八尾市文化財調査研究会報告14

昭和61年度事業概要報告

発行 昭和62年12月

編集 財団法人 八尾市文化財調査研究会

〒581 大阪府八尾市清水町1丁目2番1号
0729-94-4700

印刷 明新印刷株式会社

(表紙 レザック66<260kg>
本文 アート <110kg>
見返し 上質 <110kg>)

001